

妊娠中の歯科受診のススメ

～歯周病が妊娠に与える悪影響と、親知らずの抜歯が必要となる理由とは？～

沖縄県立北部病院 産婦人科 諸井 明仁



当院産婦人科は、北部地域にお住まいの方々が安心して産婦人科を受診できることを目指し、2019年5月より新体制となりました。産婦人科専門医の常勤医3名で24時間体制の診療を行っています。小児科医師と連携し、地域周産期母子医療センター（新生児集中治療室6床）として、前置胎盤や常位胎盤早期剥離などのハイリスク妊娠・分娩に対応し、地域完結型の医療を提供することを目標としています。

当院産婦人科における周産期医療の特色として、当院口腔外科との医療連携が挙げられます。当院に通院されている妊産婦さんのほぼ全員の口腔管理を依頼しています。それは、歯周病（歯肉炎・歯周炎）が妊娠経過に悪影響を与えるためであり、早産や低出生体重児、妊娠高血圧症候群を引き起こす可能性があるからです。

一般的に、女性は男性よりも歯周病に罹患しやすく、妊娠すると易感染性となることから、さらに歯周病になりやすいといわれています。これは女性ホルモンが大きく関与しており、歯周病を引き起こす原因となる菌群である歯周病関連菌の増殖を促すためです。その歯周病関連菌の中でも、重度の歯周病に最も影響を及ぼす菌種をレッド・コンプレックスと呼びます。また、歯周病はどんなに治療しても治りません。歯周病菌は常在菌だからです。歯周病を治療しても一時的であるため、定期的に歯科受診をする必要があります。

一方、唾液は虫歯の発症を抑える働きがありますが、妊娠中は唾液の分泌量が減少することで、虫歯になりやすくなります。つまり、妊娠

すると口腔内環境は悪化します。そしてこれは、子どもの虫歯にも繋がります。子どもの虫歯予防には保護者自身の口腔ケアが大切です。妊娠中に口腔内環境を整えることで、母から子どもへの虫歯の原因となる細菌感染が予防できたり、不適切な食生活の予防に繋がります。つまり、子どもの歯科治療は生まれる前のマイナス1歳から始まっているのです。妊娠中に歯科受診をすることで、妊婦さんとお腹の赤ちゃんの2人分の治療を受けられることになります。つまり、妊娠中の合併症を減らし、赤ちゃんへの影響を減らすためにも、妊娠中の定期的な口腔ケアが重要です。

また、親知らずは歯周病や虫歯の原因となる場合があります。親知らずとは、前の歯から数えて8番目の歯であり、一番最後に生える永久歯で智歯（ちし）といいます。親知らずは17～18歳頃から20歳代の前半頃に生えます。名前の由来は、親元を離れ、親の知らない時期に生えてくる歯だから「親知らず」という説があります。

現代人は顎の骨が小さく、親知らずが生えるスペースが不足する場合があります。親知らずは真っ直ぐに生えづらく、手前の歯に引っかかる形で止まってしまう方が大勢います。日本人の親知らずに関する研究では、左右上下の親知らずが真っ直ぐに生え、噛み合わせが可能な方はわずか3%と報告されています。親知らずが真っ直ぐに生えていない場合、汚れやすく、歯ブラシが十分に届きにくい状況となります。親知らずと手前の歯との隙間に歯周ポケットができ、細菌が増殖しやすくなり、歯周病や虫歯、口臭の原因となります。

「親知らずは早めに抜いた方がいい」と言われたご経験のある方も多いと思いますが、口腔ケアがしづらい親知らずは、症状が出てから対応するのではなく、予防的に親知らずを抜歯することが対策となります。親知らずがなければ、口腔ケアはしやすくなるため、歯周病や虫歯の予防となります。早産や低出生体重児、妊娠高血圧症候群などのリスクとなる歯周病を予防する目的で、親知らずがある場合には、妊娠中に積極的な親知らずの抜歯を提案しています。妊娠中の歯科治療は、赤ちゃんには影響がないことが分かっています。産後の入院中に親知らずを抜歯することもあります。授乳に伴う睡眠不足の影響によるためか、妊娠中と比較し傷口が治りづらい印象があります。また、退院後に抜歯をしようと思っても、新生児のケアが忙しく、歯科受診が途絶えてしまうこともあります。

その場合には、産後に歯科治療の再開を計画することもあります。口腔内の状況が悪化してからの受診となることもあり、追加の歯科治療が必要となる場合もあります。

現在の親子健康手帳（母子手帳）の中には「妊娠中と産後の歯の状態」という妊産婦さんに歯科受診を促すページがあります。そして日本産婦人科学会が定めた診療ガイドラインにも「歯科医師と連携し口腔ケアを勧める。」と示されています。2019年1月には、日本歯科医師会と日本産科婦人科学会が、妊産婦への予防歯科の普及に向けた連携が締結され、国としての取り組みも始まりました。妊娠したら赤ちゃんに加え、自身の口の中にも興味をもって頂ければと思います。

歯科受診のススメ

北部病院口腔外科  産婦人科

口の中の環境を整えることで
合併症を減らします

＜受診をオススメする方＞

- ・妊娠中の方
- ・これから妊娠を考えている方
- ・手術を予定されている方 など

詳しくは担当医がご説明します

北部病院口腔外科 部長 澤田茂樹
北部病院産婦人科 医長 諸井明仁

